

IDEC 株式会社
2027 年 3 月期 1Q 決算説明会 質疑応答要旨
(2026 年 8 月 6 日開催)

Q. 受注の状況と今後の方向性。

- A. 受注は拡大しており、特に日本は半導体の需要や先行的な受注もあるため、かなり増えている。需要そのものが強いことから、今後大きく下がる状況ではない。
- 欧州はこれまで市場が低迷していたが徐々に景気が回復しており、円安の影響もあるため受注が高くなっている。2Q の受注も大きくは変わらない想定。

Q. 部材調達と生産キャパシティの状況。

- A. 年末までの部材調達はできているが、パンデミックの時と違うのは、サプライヤーから受注をコントロールするような動きがあること。ただ、現時点で部材は確保できており、今後も確保できる見込み。現在の受注傾向は 1-2 年続く見通しであることから、生産キャパシティを上げる取り組みを行っている。

Q. 米国の関税還付の営業利益への影響。

- A. 2026 年 3 月期分の関税の一部が還付されており、基本的には顧客に還元していく。ただ、若干のタイムラグがあり、前期の関税分を全て価格転嫁できていなかったことから、その差分で 2 億円程度の影響が 1Q に含まれている。今後利益に大きな影響を与えるものではない。

Q. 4Q から 1Q にかけて粗利率が伸びた背景。

- A. 売上高が上がり、効率も上がっていることに加え、半導体製造装置などで利益率の高い安全関連機器が搭載され、売上比率が上がっている影響。

Q. 2Q の見通しと、業績予想について。

- A. 需要は堅調に推移しており、現時点で供給も大きなボトルネックにはなっておらず、今後悪化する特定の要因も現時点では想定していない。
- 通期の業績予想については、受注動向や原材料価格高騰の影響などを踏まえ、今後計画数値を精査し、改めて発表する予定。

Q. 米国新拠点の状況と取り組み。

- A. 米国新拠点の工場は半年以上前に稼働し、事務所は 8 月に完成。地産地消をベースに、開発、生産を顧客に近い場所で行うことで、顧客ニーズに合った製品、ソリューションを提供していく。メキシコ工場も立ち上げ、米国新本社では新製品の立ち上げや開発・生産を行い、既存製品はメキシコへの移管を徐々に行っていく予定。

Q. 熊本地震の影響。

- A. 若干の影響を受けたサプライヤーがいるものの、現時点で供給に大きな影響はない。